

輸入は銅地金増、スクラップ減の傾向

スクラップ需給、なお余り気味か

地金優先で

橋本 橋本健一郎氏リポート①

一月前半は、世界銀行が今年の世界経済成長について堅調な見通しを発表したこと、中国の米国債投資に対する消極的な発言を受けたドル安やLME銅在庫は一七五トン減の二〇万三、六七五トン。中国における銅スクラップ輸入規制により中国国内での電気銅需要量が増加すると予想されているなどのプラス材料もあったが、昨年十二月の中国の銅輸入が減少したこと(十二月の精錬銅輸入は十一月比四・三%減)、ニッケルの反落や、ストに入る予定だったMineralomas Bayas銅鉱山(Glencore)の労働者は会社側から提示された二%の給与増と二万〇、七五〇ドルのボーナスを受け入れたことでストは回避されたことを嫌気しLME銅相場はDOWN、一月十五日時点七、〇七〇・五ドル(セツル)と月初価格より一〇・五ドル安の前半締めとなった。

後半は、国際通貨基金(IMF)が今年の世界経済成長率を三・九%とし、七年ぶりの高水準になると予想したこと、米政府機関の一部閉鎖が解除される見通し、中国の銅スクラップ輸入規制により五〇万トン前後の電気銅地金の新たな需要が出てくると予測などのプラス材料もあったが、LME銅在庫は前日比二万八、六〇〇トン増の二七万六、六七五トンと二日連続の大幅増。二日間で七万トンの増加となった。旧正月休みを控えて中国勢が在庫売りを進めている模様などを嫌気しLME銅相場はDOWN、二月三日現在、後半スタート価格から一一四ドルDOWNの七、〇六六ドル。

◆月間のドル/円レート(TTS)
一一三・四六→一〇九・八二(円)。

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・三%増の七九万一、三二五台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・七%減の二四万三、四三三台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・一%減の七万六、七五一戸であった。

◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

気銅が二・三%減の三万二、二一六t、スクラップが四〇・七%減の二万九、五三三t。

輸入
輸入は電気銅が前年比三一・九%増の三、四三〇t、スクラップが四〇・八%減の七、〇一〇t。

■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三・二%増の六万六、四〇七t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・七%増の五万七、五〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】
十二月の四輪車生産台数は七九万一、三一五台で、前年同月比一・三%増となり、一五カ月連続で前年同月を上回った。
輸出は四万三、三九〇台で前年同月比二・五%増。

【自動車販売】
一月の国内自動車販売台数(軽除く)は二四万三、四三三台で前年比五・七%減と、四カ月連続マイナス。
このうち、乗用車六・一%減、貨物一・八%減、バス二・四%減。

【住宅着工数】

・平成二十九年十二月の住宅着工戸数は七万六、七五一戸で、前年同月比二・一%減となった。また、季節調整年率換算値では九三・六万戸(前月比二・七%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で六カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同月比二・五%減、季節調整値の前月比では〇・四%増)。

【貸家】

前年同月比では七カ月連続の減少(前年同月比三・〇%減、季節調整値の前月比では九・八%減)。(六面へ続く)

〔四面より続く〕

〔分譲住宅〕

前年同月比では先月の増加から再びの減少
(前年同月比一・三%減、季節調整値の前月比
では四・四%減)。

・分譲マンション

前年同月比では先月の増加から再びの減少
(前年同月比二一・〇%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同
月比六・六%増)。

〔伸銅品生産〕

伸銅品生産は前年比三・二%増の六万六、四
〇七tと、三カ月連続増加。

このうち、内需五万四、五九四tで三・五
%増と三カ月連続プラス、輸出一万一、八一
三tで一・九%増と四カ月連続プラス。

品種別では銅条二万一、九三〇tで六・三%
増と二〇カ月連続プラス、黄銅棒一万五、二
五三tで四・一%減と二カ月連続のマイナス。

〔電線〕

前年比〇・七%増の五万七、五〇〇t。
このうち、国内〇・五%減、輸出は六四・一
%増。

出荷部門別では、通信二四・二%減、電力
一二・一%減、電気機械〇・〇%増、自動車
八%増、建設・電販一%減、その他内需三・
七%増。

〔輸出〕電気銅輸出が一・三%減の三万
二、二一六t、銅スクラップは四〇・七%減
の一万九、五二三t。

〔輸入〕電気銅が三二・九%増の三、四三〇
t、スクラップは四〇・八%減の七、〇一〇
t。

〔見通し〕

・自動車は生産が一・三%増、国内販売台
数が前年比五・七%減。生産が一五カ月連続
プラス、販売が四カ月連続マイナス。販売
が四カ月連続マイナスに、今後も続くか注
意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月
比で二・一%減と六カ月連続マイナス。下げ
傾向かどうか今後の動向に注目。

・伸銅品は三カ月連続増加の前年比三・二
%増。

需要の多い銅条が、二〇カ月連続プラス。
黄銅棒は二カ月連続マイナス。輸出四カ月
連続プラス。

・電線は前年一・七%増の五万七、五〇
〇t。輸出が六四・一%増。需要の多い自動
車、建設・電販がそれぞれ八%増、一%減。
全体として停滞傾向。

・銅輸出は、内需用途や中国の環境規制か
ら地金、スクラップともに減少。

・銅輸入は、内需用途から地金は増加、ス
クラップはメーカーの原料地金シフトから
減少。

〔スクラップ需給予想〕

流通在庫は、伸銅品生産が回復傾向にあ
ること、価格が下落傾向にあることから売
り玉も増え、そこそこあるのではないかと。

需要面に関しては、住宅で六カ月連続減
少、自動車が販売も四カ月連続減少してい
ることや、引き続き人手不足問題からメー
カーが地金を優先に使用していることから、
上物スクラップ以外は余り気味なのではな
いか。

〔価格・為替予想〕

今月はアメリカの金融政策の動向や平昌
五輪後の北朝鮮問題に左右される。

アメリカの金融政策に関しては、雇用統
計の結果を受けて長期金利の指標となる一
〇年物国債利回りが一時二・八五%とほぼ四
年ぶりの水準に上昇、株式の相対的な割高
感や米利上げペースが速まる可能性が意識
されNYダウが六六五ドル大幅下落した。

今後も企業減税などから好調な経済指標
が出てくる可能性が高く、商品、株などからの
資金流出が懸念される。

北朝鮮問題に関しては、オリンピック前
の視察キャンセル、共同事業の中止、軍事パ
レードの開催疑惑などがあるが、一方的に
悪化する可能性もなく一進一退か？

それらを踏まえた二月の銅価格は、米金
融政策で引き締めや示唆するようなコメン
トが行われず、北朝鮮が追加的な軍事的ア
クションを起こさなかった場合、先月高値
の七、二〇〇ドルを予測。いずれかの場合
は七、〇〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった
場合、先月安値の六、九〇〇ドル。

為替は、前記材料から円安値は九月後半
安値の一〇八円〜一二二円(TTM)台を予
測。

銅建値に関しては七九〇〜八五〇円程度
と予測している。